

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための医療機関アンケート調査 ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を計画期間として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和8年度に、令和9年度から11年度までの「高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定します。

このアンケート調査は、市内の医療機関の方に、医療と介護の連携に関することなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

1. この調査は、令和7年11月1日現在でお答えください。
2. 回答は、貴医療機関としてのお考えを表明できる方がお答えください。
3. この調査は、インターネットによるご回答となります。回答方法につきましては、下記をご確認ください。

インターネット（パソコン・スマートフォン等）の回答方法

◆以下の二次元コードを読み取り、インターネット回答のサイトにアクセスします。

二次元
コード

11月25日（火）までに

ご回答いただくようお願いいたします。

【問い合わせ先】………受付時間 午前9時～午後5時（土日・祝日を除く。）

★調査の内容について

株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-650-276（フリーダイヤル）

★調査の趣旨、インターネット回答方法について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816（直通）

（この調査は西東京市が株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

貴医療機関についておたずねします

問1 記入者の職種は次のどれですか。（1つに○）

1. 医師
2. 歯科医師
3. 薬剤師
4. 看護師
5. 医療ソーシャルワーカー
6. 事務職
7. その他〔具体的に： 〕

問2 貴機関を教えてください。(1つに○)

1. 病院
2. 一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出有）
3. 一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出無）
4. 歯科診療所（在宅療養支援歯科診療所としての届出有）
5. 歯科診療所（在宅療養支援歯科診療所としての届出無）
6. 薬局（在宅患者訪問薬剤管理指導に関わる届出有）
7. 薬局（在宅患者訪問薬剤管理指導に関わる届出無）
8. その他〔具体的に： 〕

問3 貴機関は、在宅医療の実施に関してどのようにお考えですか。（1つに○）

1. 積極的に提供していきたい 3. 提供したいが、できない
2. 提供しているが、積極的ではない 4. 提供するつもりはない

問4 貴機関について、在宅医療を実施する上での課題をお答えください。

(3つまで○)

1. 訪問するための時間が確保できない
2. スタッフが不足している
3. 患者からのニーズが少ない
4. 実施するためのノウハウの不足
5. 体力的に無理がある
6. 採算がとれない
7. 病院との連携が難しい
8. 他の診療所（耳鼻科、眼科、皮膚科、歯科等）との連携が難しい
9. 介護事業者との連携が難しい
10. その他〔具体的に： 〕

在宅医療の取組状況についておたずねします

問5 西東京市民への在宅医療の取組状況（令和7年11月1日現在）についておたずねします。

（1）は一般診療所、（2）は歯科診療所、（3）は薬局の方がお答えください。

（1）一般診療所

令和7年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。	行った	行わなかった
①訪問診療	1	2
②往診	1	2
③訪問看護ステーションへの訪問看護指示書の交付	1	2
④在宅での看取り	1	2
⑤居宅療養管理指導	1	2

（2）歯科診療所

令和7年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。	行った	行わなかった
①訪問歯科診療	1	2
②居宅療養管理指導	1	2

（3）薬局

令和7年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。	行った	行わなかった
①在宅患者訪問薬剤管理指導	1	2
②居宅療養管理指導	1	2

問6 令和7年10月の1か月間における、貴機関の在宅医療患者数（実人数）について、居住地別にご記入ください。

	西東京市内	西東京市外
自宅	人	人
居住系施設※	人	人
介護老人福祉施設（特養）	人	人
介護老人保健施設	人	人
その他〔具体的に： 〕	人	人

※有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅等

問6-1 問6で記入した在宅医療患者数に対し、さらに何人程度の患者に対応できると考えますか。（1つに○）

- | | |
|----------|-------------------|
| 1. 0人 | 4. 11人以上 |
| 2. 1～5人 | 5. 今よりも対応人数を減らしたい |
| 3. 6～10人 | |

問7 貴機関は、在宅医療を行う区域や距離を決めていますか。決めている場合は、具体的な内容をご記入ください。（1つに○）

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 区域を決めている | ⇒〔具体的に： 〕 |
| 2. 距離を決めている | ⇒〔具体的に： 〕 |
| 3. その他 | ⇒〔具体的に： 〕 |
| 4. 特に決めていない | |

問8 貴機関は、在宅医療を行う時間帯を決めていますか。（1つに○）

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1. 24時間365日対応している | |
| 2. 営業時間内（外来診療時間内・開局時間内）のみ対応している | |
| 3. 営業時間外（外来診療時間外・開局時間外）のみ対応している | |
| 4. 平日のみ対応している | |
| 5. 曜日や時間を決めて対応している | |
| 6. その他〔具体的に： 〕 | |
| 7. 特に決めていない | |

医療と介護の連携についておたずねします

問9 貴機関を受診する患者への対応について、医療と介護は連携していると思いますか。（1つに○）

- | | | |
|-------------------|---|--------|
| 1. 十分連携していると思う | } | ⇒問9-1へ |
| 2. ある程度連携していると思う | | |
| 3. 連携が不十分であると思う | } | ⇒問9-2へ |
| 4. ほとんど連携していないと思う | | |
| 5. わからない | | |

問9-1 問9で「1」「2」と回答した方におたずねします。

貴機関は、どのような方法で連携していますか。（いくつでも○）

- | | |
|---|---|
| 1. サービス担当者会議に参加している
2. カンファレンスを行っている
3. 日常的に顔の見える関係を築くための会合を行っている
4. 電話で行っている
5. F A Xで行っている
6. 電子メールで行っている
7. M C S（メディカルケアステーション）等の I C Tシステムで行っている
8. その他〔具体的に： | 〕 |
|---|---|

問9-2 問9で「3」「4」と回答した方におたずねします。

貴機関がそのように考える理由は何ですか。（3つまで○）

- | | |
|--|---|
| 1. 医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない
2. お互いに多忙で連絡がとれない
3. 個人情報保護の観点から情報が共有されない
4. 交流の場がない
5. 誰と連絡をとればいいのかわからない
6. 医療関係者の介護に関する知識や理解が不足している
7. 介護関係者の医療に関する知識や理解が不足している
8. その他〔具体的に： | 〕 |
|--|---|

問 10 貴機関を受診する患者への対応について、次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。（ア～ソそれぞれ1つに○）

	連携 している	少しは 連携 している	あまり 連携 していない	連携 していない	業務上 関わりが ない
ア. 病院	1	2	3	4	5
イ. 一般診療所	1	2	3	4	5
ウ. 歯科診療所	1	2	3	4	5
エ. 薬局	1	2	3	4	5
オ. 居宅介護支援事業所	1	2	3	4	5
カ. 訪問看護事業所（ステーション）	1	2	3	4	5
キ. 訪問介護事業所	1	2	3	4	5
ク. リハビリテーション施設	1	2	3	4	5
ケ. 介護老人福祉施設（特養）	1	2	3	4	5
コ. 介護老人保健施設	1	2	3	4	5
サ. 地域包括支援センター	1	2	3	4	5
シ. 在宅療養連携支援センター （にしのわ）	1	2	3	4	5
ス. 保健所	1	2	3	4	5
セ. 市役所	1	2	3	4	5
ソ. 社会福祉協議会	1	2	3	4	5

問 11 貴機関（あなた）は市が医療と介護の連携を支援する機関として設置した「在宅療養連携支援センター（にしのわ）」を知っていますか。（1つに○）

1. 名称も内容も知っている
2. 名称は聞いたことがある
3. はじめて聞いた

問 12 「在宅療養連携支援センター（にしのわ）」に期待することは何ですか。
(いくつでも○)

1. 地域の医療・介護資源の把握
2. 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
3. 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築
4. 在宅医療・介護関係者の情報の共有支援
5. 在宅医療・介護関係者に関する相談支援
6. 医療・介護関係者の研修
7. 在宅療養やACP等に関する地域住民への普及啓発
8. 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村との連携
9. その他〔具体的に：

〕

問 13 市では今後も医療と介護の連携を推進していく方針ですが、貴機関として今後の意向をお聞かせください。(1つに○)

1. ぜひ協力したい
2. できる限り協力したい
3. 協力したいが多忙などの理由により難しい
4. 協力したくない
5. わからない

認知症についておたずねします

問 14 認知症のある人の受診・治療にあたって配慮していることとして、どのようなことがありますか。(いくつでも○)

1. 認知症のある人とのコミュニケーション
2. 認知症のある人のプライバシーの尊重・確保
3. 本人や家族へのインフォームドコンセント
4. 認知症のある人の生活歴や状況に配慮した受診・治療体制
5. 認知症のある人が不安を和らげる等、BPSDを予防する取組み
6. 他の利用者や家族、地域とのふれあい・交流の促進
7. 認知症のある人が快適に過ごせる環境の調整（音・光、見当識支援など）
8. 認知症診療・ケアをチームで推進するための体制づくり
9. 認知症対応力研修や民間の専門研修等の受講
10. 認知症診療・ケアに関する最新情報のアップデート
11. 認知症関連の資源や介護事業所、医療機関等との連携
12. その他〔具体的に：
14. 特にない

〕

問 15 認知症のある人の治療にあたりどのような機関と連携をしていますか。

(いくつでも○)

1. 認知症疾患医療センター
2. もの忘れ外来などがある高齢者医療の専門機関
3. 高齢者医療の専門機関ではないが、相当の設備を有する医療機関
4. 診療経験の豊富な医師や専門職のいる医療機関・クリニック
5. その他〔具体的に：]
6. 特に連携していない

問 16 今後、認知症のある人のためになる医療・介護の連携に大切なことは何だと思えますか。(いくつでも○)

1. 認知症への偏見をなくし、正しい理解をふまえた連携を進めること
2. 本人の立場から本人の意思決定に配慮した支援を行うこと
3. 本人や家族への接し方や説明の仕方などに配慮していくこと
4. 認知症の視点から本人の生活歴、心身・生活状況のアセスメントを行うこと
5. 地域の関係者との関わりなど、医療・介護連携を地域ぐるみで進めること
6. かかりつけ医とケアマネジャー、看護、介護との連携を進めること
7. 認知症の進行段階ごとに医療・介護の連携方法を見直していくこと
8. 入退院調整、BPSD対応等の医療・介護の連携に力を入れること
9. その他〔具体的に：]

看取りの状況についておたずねします

問 17 貴機関で、令和6年11月1日から令和7年10月31日までの1年間に在宅で看取った患者数は何人ですか。

人

問 18 在宅での看取りが可能な条件は何ですか。(いくつでも○)

1. 複数医師で診る体制づくり（他医院との連携体制などのチーム医療）
2. 在宅看取りに関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり
3. 在宅看取りに関する研修会の充実
4. 24時間対応訪問看護ステーションとの連携強化
5. 患者・家族や住民への啓発・普及
6. その他〔具体的に：]

問 19 在宅での看取りに関する課題等は何ですか。（いくつでも○）

1. 急変時や増悪時の後方支援病院等のバックアップ体制の確立
2. 複数医師で診る体制づくり（他医院との連携体制などのチーム医療）
3. 24 時間対応訪問看護ステーションとの連携体制づくり
4. 在宅医療に関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり
5. 在宅医療に関する研修会の充実
6. 在宅介護従事者との連携体制づくり（訪問介護、通所サービス、短期入所など）
7. 在宅医療従事者との連携体制づくり（訪問リハビリテーション、訪問歯科診療など）
8. 患者家族や住民への啓発・普及
9. その他〔具体的に： 〕

問 20 貴機関は、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践したことがありますか。（1 つに○）

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 実践したことがある | 2. 実践したことがない |
|--------------|--------------|

問 21 貴機関が、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要と考えることは何ですか。（3 つまで○）

1. 利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること
2. 早いタイミングから行うこと
3. 一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること
4. 日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること
5. 本人の意向を尊重し、最期まで意思決定支援を心がけること
6. 適切なサービス調整や支援ができる多職種での連携を進めること
7. 本人・家族との不一致、家族間の調整にも配慮すること
8. その他〔具体的に： 〕

災害時等の対応についておたずねします

問 22 災害が発生した場合、貴機関では「診療を継続する」ための体制は整っていますか。（1つに○）

1. 備えており、一定期間の診療継続が可能だと考えている
2. 一部の備えはあるが、十分とは言えない
3. 診療継続は難しい（特に備えていない）
4. わからない

問 23 災害時等の対応として貴機関が取り組んでいることについてお答えください。
(いくつでも○)

1. 災害対応マニュアル等を作成し、職員に周知している
2. 災害対応マニュアル等を定期的に見直しし、内容を更新している
3. 業務継続計画（BCP）を策定している
4. 災害発生時の対応について、患者や家族等に説明をしている
5. 近隣の住民等と、災害時の協力関係を築いている
6. 法人内で、災害時の応援体制ができている
7. 他法人、他医療機関と災害時の応援・連携の協力体制を組んでいる
8. 食料・水・医薬品等の必要な物資を備蓄している
9. 停電に備えて、自家発電機を設置している
10. 災害時対応の研修に職員が受講している
11. 法人内または院内で災害時対応の研修を実施している
12. 法人内または院内で災害訓練を実施している
13. その他〔具体的に
14. 特に取り組んでいない

問 24 地域に暮らす高齢者について、災害時におけるリスクは何だと思われますか。
(いくつでも○)

1. 先行きが見通せず、不安が高まる可能性がある
2. 不安やストレスを周りに訴えず、ためこんでしまう可能性がある
3. 必要な情報を入手することが難しい
4. 一般避難所の環境で過ごすことが難しい
5. 訪問系、通所系のサービスが途絶えると、在宅生活が成り立たなくなる
6. 日中活動がなくなると、ADLなどが悪化する可能性がある
7. 自宅にとどまった場合、どこにどんな人がいるかわからなくなる可能性がある
8. 想定されるリスクはない
9. その他〔具体的に

身寄りのない方への支援についておたずねします

問 25 貴機関で、身寄りのない方の支援について、次のようなことで困ったことはありますか。（いくつでも○）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 日常的な金銭管理・各種支払い | 8. 退院時の本人引き取り |
| 2. 身の回りの品の購入補助 | 9. 亡くなった場合の遺体・遺品の引き取り |
| 3. 入院計画・医療行為の同意補助 | 10. 緊急時の連絡先 |
| 4. 受診付き添い | 11. 本人の意思が確認・推定できない |
| 5. 契約の補助 | 12. その他 |
| 6. 医療費の滞納時の補償 | 【具体的に： |
| 7. 施設整備等の損壊の賠償保障 | 13. 特にない |

問 26 厚生労働省が出している「身寄りがいない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン及び事例集」を知っていますか。

（1つに○）

- | |
|--------------------|
| 1. 知っていて、読んだことがある |
| 2. 知っているが、読んだことはない |
| 3. 知らない |

西東京市の施策についておたずねします

問 27 地域包括ケアシステム推進に向けた課題は何だと思われますか。（1つに○）

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 必要な介護サービスを身近で利用できる事業所が少ない |
| 2. 相談・支援窓口の認知度が低く、サービスを受けられていない高齢者が多い |
| 3. 介護事業所とのスムーズな連携ができていない |
| 4. 老老介護、8050 問題など、支援が難しいケースが増えている |
| 5. 単身で身寄りのない高齢者が増えてきており、緊急時の対応等が難しい |
| 6. 集合住宅では、地域での見守り・支え合いが難しい |
| 7. インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している |
| 8. その他【具体的に： |

問 28 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。
